

平成二十二年度 国 語 問題用紙

注 意

- (1) 放送による指示があるまでは、問題用紙に手をつけてはいけません。
- (2) 「やめ」といわれたら、すぐにやめなさい。
- (3) えんぴつまたはシャープペンシル、消しゴムだけを机の上に出しなさい。
- (4) えんぴつや消しゴムなどを貸したり借りたりしてはいけません。
- (5) 何か質問があるときや物を落としたときは、声を出さずに静かに手をあげなさい。
- (6) 解答用紙は、机の中央に置いて書きなさい。
- (7) 問題は【一】から【三】まで、12ページあります。

答えを書くときの注意

- (1) 答えは、解答用紙の示されたところに、はっきりと書きなさい。わくからはみだしたり、読みにくい字を書いたりしてはいけません。
- (2) 答えは、とくに示されているほかは、問題の後にあげてある中から一つだけ選んで、ア、イ、ウ……などの記号で書きなさい。

【二】 放送を聞いて、次の問いに答えなさい。

(1) モグラが「田畑を荒らす害獣」と呼ばれる理由として適当でないものを、次の中から一つ選びなさい。

- ア モグラがゴルフ場のグラウンドの土を持ち上げてしまうこと。
イ モグラのトンネルのために畑の大根が二股になつてしまうこと。
ウ モグラがトンネルを掘るついでに畑の作物を食べてしまうこと。
エ モグラが掘ったトンネルのために水田から水がもれてしまうこと。
オ モグラが作ったトンネルをネズミが使つて畑を荒らしてしまうこと。

(2) 放送では、モグラが役に立つところが三つあげられていました。そのうち一つは、「畑の害虫を食べること」でした。あとの二つを答えなさい。解答は、それぞれを行ずつにまとめて書きなさい。

(3) 放送からわかる、人間から見たモグラの性質をよく表している言葉として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

- ア 一石二鳥
イ 自業自得
ウ 我田引水
エ 一長一短
オ 悪事千里

「二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。」

「僕」は同級生の仲間とともに、二年前に当時の六年生が挑戦して失敗した「池跳び」を成功させようという計画を立てた。一学期の終業式をむかえたこの日、いよいよ雄ちゃんが池跳びをすることになった。

香澄先生が、夏休み中の注意点を説明していると、廊下に人の声がひびき始めた。ほかのクラスでは下校が始まった。

マズい。僕は黒板の右上にある丸い時計に目を向けた。十一時を回ろうとしていた。雄ちゃんの池跳びに、観客がいなければ意味がない。給食がないので、生徒は真つすぐ下校する。全校生徒を引き止めることはできなくても、池の周りくらいには、観客をいっぱいにしてやりたい。それがせめてもの雄ちゃんに対する気持ちだ。

いつもは心地いい香澄先生の話だが、今日だけは早く終わってくれと思った。僕は

I して、しりをイスからうかせた。

「じゃあ、また元気に登校日に会いましょう」香澄先生はそう言いながら、クラスみんなの顔をゆつくりと見た。

日直が「起立、礼、さようなら」の号令をかける。僕は「さようなら」を言い終える前に、教室を出た。

「どけどけ、どいてくれ」

僕と雄ちゃんはさけびながら、階段をかけ下り、急ぎくつをはきかえると、打ち合わせ通りに池のふちに立った。

「雄ちゃんは準備運動開始」

「おう」

僕のすすめに雄ちゃんが、ひざの屈伸運動を始める。中庭には、

II と下校を始めた生徒たちの姿が現れる。

僕は五年四組の教室を見上げて、つーやんを探す。つーやんは教室に残り、香澄先生が職員室にもどるのを確認する役だ。

「つーやん、OKか？」

「いいよ、OK」

つーやんは、指でOKマークの合図を返した。② 第一段階突破。

僕は自分の気を落ち着かせるために、大きく深呼吸する。よしっ、やるか。僕は両手

をメガフォン代わりにして口に当てると「これから五年四組の根岸雄二くんが、池跳びに挑戦します」と、さげんだ。僕はぐるりと回りながら同じことを三度さげんだ。そのたび、校舎に反響する僕の声の中庭にひびきわたった。

「何、何。どうした？」

玄関から出てきた生徒がまず池の周りに集まってきた。次第に、表校舎、裏校舎の教室の窓、渡り廊下まですすなりの人ばかりができた。ふと見上げた教室の窓に高井の姿もあった。さすがのあいつも無視できないんだ。あ、今はそんなことはどうでもいい。よし、これでいいぞ。第二段階突破。

僕はテレビの司会者気取りで、その観客に向かって再度言った。

「これから、五年四組の根岸雄二くんが、この池跳びに挑戦します。うまく跳べましたら、拍手喝采のほどよろしく願います」

「おお」とか「きゃー」とか、声援なのか悲鳴なのか、そんな声に混じって、ほかか、あいつでできっこねーよ、という声も聞こえたけど、僕が想像していたより、みんなのA「コウフン」が伝わった。二年前に見たあの光景よりも盛り上がっている。

と、日登美が「先生つ、大変つ」と叫びながら、渡り廊下から走り去るのが分かった。

ちえつ、またあいつか。じゃまばかりしやがつて。こうなりや、先生たちが来る前にやらなくちゃ。

教室から下りてきたつーやんと合流し、着地側に陣取った。

「雄ちゃん、準備はいいか」

「おお、まかしとけ」雄ちゃんはこぶしで胸を軽くたたいた。

「では、根岸雄二くん、はりきつてまいりましょう」

雄ちゃんは、両手を上げて、それにこたえた。まるで大脱出をする引田天功のようだ。金色のマントでも羽織っていれば、もつとウケたかもしれない。^③にぎったこぶしの中に、汗がじつとりとにじんでくるのが分かった。

雄ちゃんはスタートするのかと思いきや、ゆっくり円をえがくようにうでを回した。

「何やってんだ？」

そうあせりながらきくと、つーやんが「仮面ライダーのつもりなんじゃないの」と、返してきた。

もう、ターザンでいいだろつ。大体、変身ポーズはそんなじゃないだろつ。とにかく急げ。日登美が香澄先生に告げ口しに行ったんだ。僕は職員室に通じる渡り廊下へ目

(6) 線部③「同じものを巡って、それが果たして大きいのかそれとも小さいのかで、しばしば意見が食い違ったり喧嘩にまでなったりすることがある」とありますが、同じような例がほかにもないか考えてみました。文章全体の内容をふまえ、最も適当なものを次の中から選びなさい。

ア 高速道路の料金を値下げしたことによって、これまでより交通渋滞が激しくなったことが話題になった。

イ オリンピックの開催地決定をめぐり、自国をアピールするだけでなく、他国を批判する場面まで見られた。

ウ 現在流行している若者言葉は、日本語の乱れにつながるのの声が新聞に寄せられ、紙上での議論になった。

エ 日本人の旅行者が外国の文化財に落書きをした事件が、ニュースで報じられ、マナーの低下が問題になった。

(7) この文章の展開の仕方として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 話題の提示↓本題の提示と分析↓結論と問題提起 ↓発展的な主張

イ 話題の提示↓本題の提示と比較↓発展的な主張 ↓結論と問題提起

ウ 問題提起 ↓問題に対する仮説↓分析に対する結論 ↓新しい考え方の提示

エ 問題提起 ↓問題に対する反論↓新しい考え方の提示↓分析に対する結論

(3) I に入る言葉として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 初めて見たものですから。

イ どちらとも言えませんから。

ウ 食べたことはありませんから。

エ いろいろな種類がありますから。

(4) 線部②「このように〈大きい、小さい〉で形容できる事物は私たちの見慣れたものに限られるのです。」とありますが、それはなぜですか。理由として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 「大きい、小さい」は、その人の中にある基準に関係なく、目の前のものを見て直接判断するものだから。

イ 「大きい、小さい」は、その人の中にある標準的な大きさと、目の前の実物とを比べて判断するものだから。

ウ 「大きい、小さい」は、その人の中にある標準的な大きさと、他の人の基準とを比較して判断するものだから。

エ 「大きい、小さい」は、その人だけの判断では間違えることがあるので、多くの人に聞いて判断するものだから。

(5) II に入る言葉として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 意識や基準

イ 種類や季節

ウ 経験や知識

エ 時代や地域

を向けた。

雄ちゃんは、手のひらに巻いた包帯をほどくと、それを空高く放り投げた。ひらひらと舞った包帯があじさいの上に落ちた。

雄ちゃんは、ぺっぺつと両方の手のひらにつばをつけた。

「跳ーべ、跳ーべ、跳ーべ」

観客は、手拍子を始めた。

と、そこへ日登美に手を引つ張られ、よろけるように香澄先生がやってきた。香澄先生は渡り廊下から「根岸くん、何やってるの、やめなさい」と、大きな声でさげんだ。

雄ちゃんは香澄先生に気づき、顔をそちらに向けた。ひるむのか。やめるのか。と思った瞬間、雄ちゃんは満面の笑みで香澄先生を見ると、ぴよんとその場跳びをして、一気に走り出した。

「おおおっ」

どよめきが津波のように起こる。

「行けーっ」

僕とつーやんは大声で後押しした。

雄ちゃんは、池のふちに並んだ石の手前を右足でつけた。雄ちゃんのからだは、まるでスローモーションでも見るようにゆっくりと、B チュウに舞った。①瞬間、歓声もセミの鳴き声も、すべての音が僕の耳から消えた。

雄ちゃんの両手が、ヤナギの枝をがっちりとりええた。すると、枝は下に向けてしなった。次の瞬間、しなった枝が雄ちゃんをぐいっと引つ張り上げる。

「よし、よしよしよしーっ」

僕のさけび声が届いたのか、雄ちゃんのつま先がこちらの線に並んだ石の上に届いた。

やったー。

僕がガッツポーズを決めようとしたとき、雄ちゃんの上半身は池の中央へと引きもどされ、ななめに静止してしまった。手をはなすタイミングを逸してしまったせいだ。届いたつま先をふん張り、歯を食いしばりながら、枝の上の方を必死につかんで起き上がるうとしている。

「ぐぐぐぐぐ」

雄ちゃんのと太ももがブルブルとふるえている。

「雄ちゃん、がんばれ、がんばれ」

つかんだ枝の葉っぱをそぎ落としながら雄ちゃんがズリ落ちる。

「ち、ちつくしょーっ」

雄ちゃんは最後にそう発すると、勢いよく大きな水しぶきを上げて後頭部から池の中に落ちた。

「あーあ」

僕とつーやんだけでなく、それを目撃したみんなからさげび声が上がった。

「うげー。おぼれる、助けてくれー」

雄ちゃんは、池の中ほどで手足をバタつかせ、水しぶきを上げる。

がははは。わははは。雄ちゃんのその姿に、みんなのため息は爆笑のうずに変わっていた。

僕とつーやんがかけ寄る前に、香澄先生が一步早く雄ちゃんに近づき、あきれたように「何やってるの、あなたは」と、深いため息をもらした。

「えへへ。暑いから、ちょっと水浴び」首まで水につかった雄ちゃんは笑いながら答えた。

「早く、上がりなさい。さあ、つかまって」

香澄先生は中腰になり手をのぼそうとしたが、ちらりと自分の白いシャツに目を落とすと明らかに躊躇し、その手を止めた。雄ちゃんが伸ばした指先は、池の底にたまったヘドロのような汚泥で真っ黒だった。

「うん、もう」

香澄先生は、困ったように二、三度首をふると、観念したのか、雄ちゃんのよごれた手をつかんで引く張った。僕はそんな香澄先生の表情を間近に見られて、なぜかうれしくなった。

(森浩美『夏を拾いに』による)

注 *1 引田天功「脱出マジックを得意とするマジシャンの名前。」

*2 躊躇し「ためらって。」

*3 汚泥「きたないどろ。」

ンゴという果物の種に固有なものであることになります。ですからリンゴの大きさを判断するときミカンやスイカは関係ないのです。そこで当然出てくる問題は、Ⅱ によってリンゴの大きさは色々と変化するのだから、人々が皆同意する平均的なリンゴの種としての大きさなど一体あるのだろうかということです。

たしかに以前のように多くの人が狭い自分の村や町を離れずに暮らしていたときは、色々な事物（たとえばリンゴ）に関する人々の知識や経験には余り大きな違いが見られませんでしたから、種の基準はかなりの正確さで様々なものに存在したのです。しかし現在のように異なる地域の間で人々の交流が激しくなると、全ての人に共有される常識はどんどんとすくなくなり、その上世代間での知識や経験も大きく食い違うのが普通になってきました。ですから、同じものを巡って、それが果たして大きいのかそれとも小さいのかで、しばしば意見が食い違ったり喧嘩にまでなったりすることがあるのは、それぞれの人が頭の中に抱えている種の基準が同じでなく、しかもこのことを双方がはっきりと意識していないことに原因があるのです。

(鈴木孝夫『日本語教のすすめ』による)

注 *1 形容詞ものの性質や様子などを、いろいろな言葉を使って言い表すこと。

*2 品評会「産物や作品などのできばえを評価する会。」

(1) A と B にあてはまることばを、それぞれ次の中から選びなさい。

ア	あるいは	イ	ところが	ウ	つまり
エ	たしかに	オ	例えば	カ	しかも

(2) 線部①「それ自身独立した性質」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 色の名前は、いろいろなものを見ることによって決まってくるということ。
 イ 色の名前は、子供でも簡単に使うことができるほど単純であるということ。
 ウ 色の名前は、それを教える人によって呼び方に違いが出てくるということ。
 エ 色の名前は、どんなものの色かに影響されずに呼ぶことができるということ。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〈赤い〉のような色彩名は、小さな子供にでも簡単に教えることが出来ます。なにが赤いもの、例えばリングとか部屋のすみにある消火器などを指して、この色が〈赤い〉色ですよと教えればすぐ覚えてしまいます。そして一度何かで〈赤さ〉とはどんな性質なのかを飲み込んだ子供は、今度は自分で次々とお姉さんのセーター、郵便ポスト、消防自動車などを見ては、これは赤い、あれも赤いと言えるようになります。赤さに限らず色彩名は全てこのように、それ自身独立した性質で、どのようなものについても用いることが出来るのです。

ところが〈大きい〉と〈小さい〉は違うのです。一見〈赤い〉などと同じく簡単にみえますが、調べてみると実はそうではないことが分かります。今ではごく普通になりましたが、私の若い頃はマンゴーという果物はとても珍しいものでした。そこで初めてマンゴーなるものを店先で見ても感心している人に向かって、このマンゴーは大きいのでしょうか、それとも小さい方ですかと聞いたとしましょう。その人の答えは十中八九「分かりません、何しろ」**I**「だと思えます。そうなのです。私たちは日常生活の中でしばしば「これは大きいぞ」とか「なんて小さいんだ」などと言いますが、このように〈大きい、小さい〉で形容できる事物は私たちの慣れたものに限られるのです。

A 品評会などで片手では到底もてないほどの大きさのリングを見た人は、おそらく誰でも「イヤー何て大きいんだ」と叫ぶと思います。人々の頭のなかにリングというものは大体これぐらいの大きさのものという、いわば標準的なリングの大きさが経験的に入っているからこそ、目の前のリングを見てそれが大きいのか小さいのかを言うことができるのです。

B マンゴーを生まれて初めて見た人は、頭の中に標準的なマンゴーとはどれぐらいの大きさのものかという経験の蓄積がないため、なんとも答えようがなかったのです。

以上の分析で分かったことは、リングが大きいと言うとき私たちは目の前の事物（リング）の性質について直接判断を下しているようでいて、実はリングとは大体このくらいのものだという、あらかじめその人の頭に入っているリングの平均的標準的な大きさと目の前の実物を比較して、その結果、「大きい」とか「小さい」と言っているのです。ですから私たちはそのことをまったく意識してはいませんが、「何々は大きい、小さい」といった文はそれだけです。一種の比較文なのです。あるリングが大きい、小さいと言うことは、「リングとしては大きい、小さい」と言っているわけで、比較の基準はリ

- 9 -

(1) **I** と **II** に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選びなさい。

- | | | |
|---|-----------------|------------------|
| ア | I Ⅱ いらいら | II Ⅱ ぶらぶら |
| イ | I Ⅱ うきうき | II Ⅱ いそいそ |
| ウ | I Ⅱ じりじり | II Ⅱ のろのろ |
| エ | I Ⅱ そわそわ | II Ⅱ ぞろぞろ |

(2) 文章中には、――線部①「観客」という表現が何回か出てきます。それらはどのような意味をふくんでいると考えられますか。最も適当なものを次の中から選びなさい。

- ア 「僕」が司会を務める舞台を整えるために、集まってもらった生徒たちであるという意味。
- イ 集まってくる生徒たちは、池跳びをいっしょに盛り上げてくれる参加者でもあるという意味。
- ウ 多くの生徒が集まってくることを期待する「僕」が、その人数の多さを強調するという意味。
- エ 全校の生徒にとって、お金をはらってでも見る価値のある大きなイベントが始まるという意味。

(3) ―線部②「第一段階突破。」とありますが、それはどのようなことですか。二十五字以内（句読点をふくむ）で答えなさい。

- 6 -

(4) ——線部③「にぎったこぶしの中に、汗がじつとりとにじんできるのが分かった。」とありますが、このときの「僕」の気持ちを説明したものとして最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 雄ちゃんのために多くの生徒を集めることができた満足感と、司会としての努力がむくわれた充実感。

イ 雄ちゃんが早く跳ばないと先生が来てしまうという心配と、先生に告げ口をした日登美に対する怒り。

ウ 雄ちゃんの池跳びがいよいよ始まるという緊張感と、計画通りにうまく成功してほしいという期待感。

エ 雄ちゃんが失敗するのではないかとという不安と、とんでもない計画を立ててしまったことに対する後悔。

(5) ——線部④「一瞬、歓声もセミの鳴き声も、すべての音が僕の耳から消えた。」とありますが、これはどういうことですか。説明として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 周りの歓声が大きすぎて、耳が聞こえなくなったような気がしたということ。

イ 目の前の光景に神経を集中したため、周りの音が聞こえなくなったということ。

ウ 始まった瞬間に周りが突然静かになり、話し声が聞こえなくなったということ。

エ 気が遠くなったような状態になり、周りの音が聞き取れなくなったということ。

(6) ——線部⑤「観念した」の意味として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア あきれた。

イ よく考えた。

ウ がまんした。

エ あきらめた。

(7) ——線部⑥「なぜかうれしくなった。」とありますが、このときの「僕」の気持ちを表したものととして最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア さっきまで止めようとしていた香澄先生が最終的には雄ちゃんを助けてくれたことで、しかられずにすんでほっとしている。

イ きれいな好きな香澄先生がよごれるのもかまわずに雄ちゃんの手を引っ張ったので、意外に勇気があることを知り感心している。

ウ 今まで見たことがなかった香澄先生のかざらない素顔に接することができ、自分に近くなったように思えて親しみを感じている。

エ あこがれの的である香澄先生がどろまみれの雄ちゃんに心を開いてくれたので、計画の失敗を忘れられるような気がしている。

(8) 「僕」の周りにいる人たちはどのような人物としてえがかれていますか。文章から読み取れることとして適切でないものを、次の中から選びなさい。

ア 雄ちゃんは「僕」の遊び仲間の一人であり、目立ちたがり屋でいたずら好きである。

イ つーやんは「僕」の遊び仲間の一人であるが、雄ちゃんの挑戦に対しては香澄先生と同じく半ばあきれている。

ウ 高井は「僕」と距離を置き、関心を示しながらも「僕」たちの行動を冷やかに見ている。

エ 日登美は「僕」たちが危険なことをしようとするのを香澄先生に知らせ、止めさせようとする正義感の持ち主である。

(9) 文章中のA「コウフン」・B「チュウ」を漢字に直しなさい。(ハネやハライなどの点画もきちんと書くこと。)

【三】	
(4)	(1)
	A
(5)	B
(6)	(2)
(7)	(3)

【三】			
(8)	(4)	(3)	(1)
(9)	(5)		(2)
A			
	(6)		
B			
	(7)		

【三】		
(3)	(2)	(1)
	○	○

国語 解答用紙 (平成二十二年度)

受験番号	
------	--

(国語)

※記入しないこと